



# おちほ

第100号 令和7年11月1日 発行 社会福祉法人 椎の木会 発行者 太田 正 則  
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <https://ochiho.noor.jp/>



今号で広報「おちほ」が100号の発行となりました。今回、これまでに発行された広報の99部を並べてみました。こうしてみるとなかなか壮観な眺めです。最初の1号から3号までは冊子になっており、昭和38年から39年まで年一冊の発行でした。それ以降から今と同じ年数回の発行へとなっています。初期の広報はほぼ文章でしたが、段々と写真やイラストが多くなり、93号からはカラーとなりました。広報の作成もフィルムのカメラからデジタル、原稿も手書きからワープロ、そこからパソコンへと時代と共に変化してきました。

広報を並べながらチラチラと中身を見てみると、懐かしい顔や、今の面影が見られる若かりし頃の写真など、利用者さん、職員、これまで落穂寮に関わってきた人達の歴史がありました。落穂寮という場所がこれまで沢山の方の人生と交差して、そしてこれからもしていくのでしょうか。その様子を広報という形でこれからも伝えていけたらと思います。

毎号、広報に協力していただいている利用者さん、職員のみなさん、そしてこれを読んでいる「あなた」へ改めて御礼を申し上げます。これからも広報「おちほ」をよろしく願います。

# 排除して包摂する社会は健全か

理事長 太田 正 則

『二〇〇七年。障害のある児童を取り出して療育をする特別支援教育が始まりました。就学前の子供の二十二%、小中学生の十二・十三%は『課題がある』から療育をするといって取り出され、良い点数を取る教育を効率的に実施するため、教室に「生産的」な子供を凝縮させることが正当化されています。「その子に課題があるから解決しましょう」と排除され、別の場所を作って包摂する』(二〇二五・七・十五・朝日新聞オピニオンから一部抜粋省略)と教育社会学者の桜井智恵子さんがインタビューで答えておられます。

さて、椎の木会は創立以来重度・最重度の知的障がいを持つ方を支援してきましたが、平成に入ると自閉症といわれる特性を合わせ持つ方が増え、現在では発達障がいのひとつとして認知され、その特性に合った支援の提供が不可欠となっています。しかし、平成元年前後のその当時、すべてが手探り状態にあったことから不適切

な対応がなされ、現在で言う「強度行動障がい」に移行してしまわれる方が多くおられました。特に、

最重度知的障がいの方はその傾向が顕著でした。しかし現在は、発達障がいについて詳しく知ることができ、障がいに伴う特性を知り、支援方法を学ぶことで強度行動障がいに移行することがないような環境を整えることで、その方が本来到達することができる段階まで発達を保障することができるようになりました。ただ、その環境はどこにでも整備することができないものではないようで、特別な学校や学級を作って「その子の課題を解決します」とされています。しかし、その特別な環境を整えられたにもかかわらず、再びそこで新たな課題を表す子供たちがいます。全ての子供に居場所が必要という事でフリースクールという居場所が全国各地に作られ、学校とは異なるカリキュラムで、子供の個性や興味関心、それぞれのペースにあわせて自由な学習ができる場所

となっています。また、教育現場だけでなく、生活の現場でも子ども食堂という居場所が作られ、社会生活がままならない貧困といわれる家庭で生活する子供の居場所となっています。

強度行動障がい、不登校や引きこもり、貧困家庭での子供の養育、これらの課題を解消するために新たに作られる居場所。これが健全な社会の価値観から作られたものといえるのでしょうか。

『この子らを世の光に』と言われた糸賀先生の言葉があります。『どんなに重い障害を持っていても、だれととりかえることもできない個人的な自己表現をしているものなのである。人間と生まれて、その人となりの人間となっていくのである。その自己実現こそが創造であり、生産である。』

私たちのねがいは、重症な障害をもったこの子たちも、立派な生産者であるということ、認めあえる社会を作ろうという事である。

『この子らに世の光を』あててやろうというあわれみの政策を求めているのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよみがきをかけて輝かそうというのである。『この子らを世の

光に』である。』

排除して包摂する居場所を作ることは、「光をあててやろう」ということと同じではないかと思うのは、私だけででしょうか。根本的な問題を解決せず、対処療法的にその場をしのいでいるように思えてなりません。

先生は『だれととりかえることもできない個人的な自己表現をしている。人間と生まれて、その人となりの人間となっていく。その自己実現こそが創造であり、生産である』と言われています。そして『この子らを世の光に』するという事は、すべての人が『立派な生産者である』ということを、認めあえる『健全な価値観をもった』『社会』を作ろうと私たちに言葉を残されています。

今、日本も含めた世界中で、自分の価値観に合わない人を排除するような言動が多く見聞きされます。

排除して包摂するのではなく、本来の意味での「共生する社会」をどうすれば創っていくことができるのか、皆さんと一緒に考えていくことが出来ればと思います。

(二〇二五・九・一二)

# 生きた証

施設長 三浦奈穂子

日頃から当事業所の運営に関しまして多大なるご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて私たち支援者としてよく「人の命を預かっている」という表現が使われることがあります。普段目に映る利用者さんたちは元氣な姿で接することがほとんどな為、そんな姿を見ていると命(死)を意識して関わっているかと言われるとそれに対する態度はあまり高く持っていない気がします。

しかし、早朝に届いた突然の訃報を知らせる電話を受け、前日までの姿が思い出され信じられない感情とともに、私たちが向き合っているのは明日をも知れぬ命であることを再認識させられました。親族の方が「太く短い人生でしたが、本人は幸せに生きたと思います」と話されました。この言葉を受けて思い返してみると出てくるのは本当に笑顔ばかりです。本人の幸福の表れですが、笑顔だけでなく別の事も私たちに沢山残してくださいました。一筋縄ではないかない支援の難しさによって観察力・状況判断する力・チームでの情報共有などの、支援スキルの向上、過ごす際に彼が見せる満面の笑みによる、関

わりの楽しさ、人見知りから始まった「信頼を築いていく大切さ」など、支援にあたった職員全員が彼との関わりによって支援者として成長をさせていただけの存在であったと思います。また彼との関係性が深くなるにつれて支援を受け入れてくれる幅も広がり、彼の生活の質も豊かになっていくなど支援者と利用者さんの相互関係が高められ支援者として自信ややりがいを感じさせていただけの方でした。

数か月経った今でもまだ朝の送迎時に彼の名を呼ぶお母様の声と共に笑顔で走ってくるのではないかと期待してしまっています。こうした私たち支援者に残していただいたこと全てが生きた証として思い出とともに心に刻まれています。

彼の生きた証として得たスキルを次なる支援に活かされるよう、法人理念にあるように「その人らしい自立した生活を」の意味を考え、利用者さんたちが生き生きとした生活が送れるような支援を提供していきます。

最後に：彼の生き様は、精いっぱい生きた証としてこれからも私たちの心に残り続けるでしょう。祐規さん、九年間の思い出をありがとうございます。

# 追悼

舟木祐規さん

落穂寮通所生活介護を利用してされていた舟木祐規さんが八月一日の早朝に亡くなられました。享年二十八歳でした。てんかんのお薬は飲んでおられましたが、特に持病もなく、大きな病気をしたこともない方でしたので、突然の訃報に職員一同、驚きと動揺が隠せない状態でした。二十八歳という若さもあり、ご家族の驚きと悲しみはいかばかりだったでしょうか。想像もつきません。あらためてお悔やみ申し上げます。

祐規さんが落穂寮の通所を利用して始めたのは三雲養護学校の高等部を卒業されてからすぐでしたので十八歳の時でした。「いたずらっぽい笑み」という表現がありますが、彼の場合は「いたずらをしてやった笑み」の毎日でした。彼の行動に驚いたりあきれたりしている職員を見て、「ニヤリ」と笑うのです。心の中で(時々外に漏れてしまっていました)溜息をつきながら、「このいたずらに

いつまで付き合えないかんのかなあ。」などと考えたものです。それが突然終わってしまった。あまりにも急でした。まだまだ「いたずらをしてやった笑み」が、これからも、この先も続いて行くものと思っていました。

「朝に紅顔ありて  
夕べに白骨となる」

人の運命は予測のつかないものです。理屈では分かっているつもりでも、目の前に現実として突きつけられると気持ちの整理が追いつかないのもまた事実です。今は只々、ご冥福をお祈りするばかりです。



# 男子棟



いっぱい食べるぞ!!

元気で過ごせますように!!

## 地蔵盆・納涼祭

各棟に分かれてですが、八月に地蔵盆、納涼祭を行いました。なかなか外出できない中行われた行事で皆さん楽しそうに過ごされていました。

午前中に、お地藏様にお参りされています。しっかり手を合わせて一年間の感謝と今年も無病息災で過ごせるようにと願いを込めて真剣にお参りしました。

棟に戻られると甚平に着替えて、昼食は普段とは違う料理、唐揚げ・焼きそば・フランクフルトなど豪華な料理を頼一杯に詰め込まれて美味しそうに食べておられました。お皿が空になると席から立ち上がり自身の好きな料理をおかわりしに行くなど和気あいあいとした時間を過ごされています。昼食を終えると普段通りの生活へ戻られています。その日の夜はぐっすり寝をかきながら寝ておられ、納涼祭は終わりを迎えました。

あまり外出が出来ない中でこの様な行事を開催でき、普段とは違う笑顔で楽しむ姿が見られて職員一同嬉しくなりました。今年一年も皆が健康で楽しく暮らせますように。



## 日常生活

猛暑が続く中、利用者の皆さんは夏バテされる事なく元気に過ごされています。

三十度以上の気温が続く中、皆さん毎日変わらず歩行へ行かれています。熱中症対策としてクールネックや歩行の合間に休憩を挟み無理のない範囲で元気に歩かれています。歩行中には景色などを見て職員とお喋りをし、近所の方に挨拶をして歩かれています。歩行から帰ってくる時は着替。水分補給のお茶を飲み、ラムネを食べられています。その後、それぞれテレビを見たりしながらのんびり過ごされています。

午後の活動は、お風呂へ入られる方、日課班で作業棟へ移動して紙作りをされる方、ホールで職員と作業する方など様々です。紙作りでは牛乳パックを再生してのハガキの製作。ホールでの作業は、アイロンビーズやストロー通しなど一人ひとりに合った活動を提供しています。また、リラックスタイムなどを設けてテレビ鑑賞をしたり、コーヒーを飲まれるなど、息抜きなどもしつつ、作業をしてもらっています。

週末になると利用者さん全員が大好きなドライブに出かけるなど、休日を楽しんでいただいています。利用者さんそれぞれが落ち着ける空間でのんびり安心して過ごせる様、これからも職員一同頑張っていきます。

# 女子棟

## お花見

去年のお花見は雨模様でしたが、今年は快晴。お昼は寮内の桜を眺めながら、豪華なお弁当を頬張りました。お弁当を食べた後は満腹のお腹をさすりながら、しばし休憩。春の麗らかな日差しが心地良く寝転がる利用者さんも。

お弁当を食べた後は近所の上草穂神社まで遠足に行きました。普段の歩行コースとは違い、桜満開の道を皆で楽しく歩きました。神社に辿り着いた後は疲れを癒す、ジュースを飲みながら、ゆっくりお花見。沢山笑顔がこぼれる一日になりました。

お腹いっぱいウウトウト...ZZZ



たくさん歩きました！



新しい靴似合うかな...？

## パースデイ外出

春生まれと夏生まれの利用者さん、二組に分かれて外出をしました。春生まれの利用者さんは大きなショッピングモールで買い物。夏生まれの利用者さん達は王将でランチを堪能しました。二組とも普段の寮生活では味わえない体験に興奮した様子で外出を楽しんでいました。



ゆうこさんリクエスト  
王将ランチ♪

## 地藏盆・納涼祭

厳しい夏の暑さに見舞われた今年の八月。恒例の地藏盆・納涼祭を行ないました。まだ涼しさが残る朝、今年も一年間の感謝と無病息災を祈り、お地藏さまに手を合わせ、お参り。お昼は皆さんのお楽しみである焼きそばや唐揚げにフランクフルトを嬉しそうに頬張る姿に職員も笑顔になりました。

そして午後からは職員がこの日の為に用意した手作りウォーターマット。まるで小さな水族館のような色鮮やかな魚たちを閉じ込めたウォーターマットに利用者さんは夢中。ひんやりちゃぶちゃぶとした感触が気持ちよかったのか、寝転がる利用者さんも。魚釣りやモグラたたきなど縁日のような一日を過ごすことが出来ました。



しっかり両手を合わせて  
元気に過ごせますように



チャブチャブ♪



冷たくて気持ちいいな！



いっぱい釣るぞー！

## 地蔵盆・納涼祭



熱中症警戒アラートが毎日のように発表されるこの夏。外へ歩行に出る事もままならない日が続いている中、毎日利用者さんを見守って頂いているお地藏様に、一年健康に過ごせたことへのお礼を伝えるために、利用者さんと職員で朝早くからお化粧直ししたお地藏様へお参りしました。

美味しい昼食を食べた後、他棟の利用者さんを招いて納涼祭を開催！今日のおやつで食べるゼリーを、それぞれ好きな果物を選んで、職員と一緒に包丁を使っておやつ作り♡こっちの果物も美味しそう、あっちの果物も食べたい！

ゼリーを冷蔵庫で冷やしている間に、『それいけ！アヒル釣り対決！アヒルは誰の手に！』二組に分かれて、利用者さん職員力を合わせて楽しく対決！



アヒル釣り対決

利用者さん職員一緒にアヒル釣り対決で盛り上がりました。



ゼリー作り

みんなでおやつゼリー作りに挑戦。おやつ時間に美味しくいただきました



地藏参り

利用者さんを見守るお地藏様へお参り



男子棟の利用者さんが遊びにきました



おいしい！



ハイチーズ！

『暑さバイバイ！CATCH THE HANDS!宝を掴み取れ！』中身の分からないカラフルな入れ物から一つを選んで、中から出てきた素敵なブレゼントを手には、皆さん大喜び♡

最後に、『おやつ時間だ！モグタイム』冷蔵庫で程よく冷えた、手作りゼリーをみんなで楽しく食べて、今年の地藏盆・納涼祭も楽しく過ごす事が出来ました！

## お花見



今年は、例年より早めの開花となった桜。せっかくなので、花見でもしようかと、昼食をいつもの場所ではなく、外で食べる計画を立てました！天気は良いものの肝心の桜が：葉桜に変わっていました。四月中旬だというのに、もう散ってしまっただのかと、寂しい気持ちになりました。

しかし、せっかく晴れたというところで、そのまま外でご飯を召し上がっていただけました。外でご飯を食べるという事が珍しかったのか、とても喜んでいただけました！この日は、BCPの訓練のため、簡易的なメニューでしたが、弁当箱に盛り付けると一気に豪華メニューに早変わりです。利用者さんの笑顔も溢れ、職員一同、嬉しい気持ちになりました。青空の下で花見、もといピクニックを楽しんだ多機能棟でした。来年、もし花見をする場合は、もう少し早めの時期に開催したいと思っただけでした。



# 通所生活介護+てよならマイクロバス

落穂寮のマイクロバスが7月の末で引退となりました。平成十三年に新車で落穂にやってきたので約二十五年のお勤めでした。今ではピカピカのマイクロバスがやってきた時のことを覚えてるのはベテランの職員数人で、ほとんどの職員にとっては事務所の前にお尻を向けてたたずんでいる姿が日常の風景の一部となっていたのではないのでしょうか。そんなマイクロバスの最後のドライブに七月二五日に通所生活介護のメンバーで行ってきました。毎週金曜日には「一週間ごころうさま」という意味で通所生活介護ではドライブに出掛けています。マイクロバスの車検が切れるのが七月二六日でギリギリでした。運転する職員は多少感慨深いものがありました。利用者さんはいつもと変わらず元気にバスに乗り込んでいきます。広々とパーソン



いつもの見慣れた景色

ナルスペースが確保できるマイクロは皆さんお気に入り。思い思いのスタイルでドライブを楽しんでおられました。

ここ数年でマイクロバスを運転できる職員も少なくなり、コロナの頃から大人数でどこかへ出かけるようなこともなくなりました。また、バスへの乗り降りが昔のようにできない利用者さんも増えてきました。これも時代の流れでしょうか、マイクロバスが引退した後は普通車が代わりに納車されることとなります。

利用者さんにたくさん楽しませたい出をありがとう、おつかれさま、マイクロバス！



最後のドライブに出発！今までありがとう！

## お炊事

## 新人紹介

## いのきホーム



左から伊地知 st、西尾 st、林 st

初めまして。今年の五月中旬から炊事で働かせていただいております。炊事にしおゆら西尾優羅と申します。前職ではお花を育てておりましたが、ご縁があり落穂寮の炊事に来させていただきました。入社したばかりで右も左も分からない状態ですが、優しい先輩方から日々たくさんのお話を学ばせていただいております。これからの炊事のチームワークをいかし、利用者さんや職員の皆様に安心して美味しく食事を楽しんでいただけるよう頑張っております。職種は初心者ですが、一日でも早く仕事に慣れ一つひとつ丁寧に取り組み成長できるように頑張りますので、ご指導やアドバイスをいただけると幸いです。よろしくお願ひします。



須磨 st ホームの玄関にて

皆さん、初めまして。今年の五月より、しいのきホームで働き始めました、須磨里依子です。私は、去年の十月に湖南市に引っ越してきました。夫と娘の三人暮らしです。私の弟は障害を持っており、それをきっかけに小さい頃は養護学校の先生になるのが夢でした。夢は叶いませんでしたが、学童で働いたり、関わる仕事に就きました。それから、少し福祉系の仕事から離れ、飲食店やタクシーで働いたりしました。そして、もう一度福祉の仕事がしたいと思ひ、応募しました。これから頑張りますので、よろしくお願ひします。

# 開寮記念日と職員表彰



五月一日落穂寮開寮記念日のお祝いの式典が行われました。この日は七十五回目の開寮記念日、落穂寮も七十五歳になりました。炊事職員が用意してくれたちょうがテーブルに並びます。しかし、ごちそうの前にまず永年勤続表彰です。今年は法人内四名の職員が対象となりました。今までの功績を称え、全員で「パチパチパチ」と感謝の想いも込めた拍手と花束の贈呈です。それぞれ関わりの深い利用者さんから花束、理事長からは表彰状と金一封が贈られました。表彰された職員からも一人ずつ簡単な挨拶をしていただき、今まで同様更に活躍していただけたらと思います。

さあ、いよいよお楽しみのお食事タイムです。元気に「いただきます。」をしてからのスタートです。今年のメニューは豚スタミナ焼きと手作りカップケーキです。炊事職員が腕によりをかけて作っていただいたごちそうです。食べやすさや美味しさの二刀流で提供されるため、利用者さんも大満足な様子でした。

ご協力ありがとうございます

〈寄付金〉

株式会社 シガ技研

川北 智之

〈物品の寄付〉

加屋 隆士

原田 隆和

株式会社 オージス総研

ダイトロン福祉財団

栗東浪漫卯

(敬称略)

社会福祉法人権の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。

今後変わらぬご支援、ご協力をよろしく願います。ありがとうございました。

令和七年十月末現在



ことば

今年も異常な暑さ

「十年に一度の暑さ…」

というけれど

これが十年続いたら?

「例年の暑さ…」になるの?

あと何年で?

泉

前回お米とお酒の話で「自由と規制」のバランスについて考えてみました。

「自由と規制」に関しては福祉の世界でも議論となる場所です。自由に参入出来て利益も見込めるのであれば、新たな業者が増えますし、利用者にも選択肢が増えればそこに競争も生まれて、サービス内容の充実・向上も考えられます。しかし競争となれば勝ち負けがあるのが世の常。ラーメン屋であれば赤字経営で退場してしまってもお客には他のラーメン屋、うどん屋・蕎麦屋など選択肢(麺類でなければいくらでも)がありますが、福祉の事業はそうはいきません。利用者の方にとって事業所の変更は本人にも周囲にも大きな負担となる事は皆さんお分かりだと思います。その様な事態を防ぐためには参入時の「規制」や経営への「監視」なども必要となってきます。

「自由と規制」はゆる過ぎず、厳しすぎずのバランスで、社会や経済の状況も反映しなくてはなりません。このような駄文を書いている者より何倍も賢い方々が日々考えておられると思います。純粋な経済活動・商業ベースで測れない面も多く、とても難しいのではないかと思われます。